



1934  
16

遊て く い く し や う て  
如に て 後 は 松 林 松  
付き 法 心 文 里 中 房 中 房 再 尋 常

右の 勅 の い ふ と わ り 一 書 房 の 年 こ と り か れ と 進 付 松 林 松

通は 諸 分 本 軍 談  
并 大 信 常 時 同 志 の 歌 味 方 附 流 の 勢 勢 と と と

付き 二 法 心 文 里 中 房 中 房 再 尋 常 法 ぞ う く

全く 六 卷 近 目 お 来 信

也来 り 流 ん の く と は

風に 和 國 玄 宗 不 會 帝

付き 方 士 が そ の 被 に 形 名 の 数 一 の あ 上 の 庭 積

男ふ 不 審 紙 金 多 式 卷

右の お 進 付 お 来 信 り 来 り 流 ん の く と は

全く 六 卷 近 目 お 来 信

各々 松

二〇〇

忠信畧太平記 卷一 目錄

信く や り の 書 不 因 へ と 傳 ん ご ん

兼あ 言 の 後 兼 一 名 の 被 と の 流 ん の く と は 松 林 松 の 勢 勢 と と と

寺の 中 に 松 林 松 の 法 止 湯

四十 八 段 の 紙 子 の 火 お 火 火 と ら り 流 ん の く と は 松 林 松 の 勢 勢 と と と

書き 子 と 離 ん に 紙 子 穿 人 の 流 ん の く と は 松 林 松 の 勢 勢 と と と

内の 流 ん の く と は 松 林 松 の 勢 勢 と と と は 子 は 氣 と つ け り 母 如 自 害 者 と 考 す の 二 流 ん の く と は 松 林 松 の 勢 勢 と と と



小  
玉  
早  
草  
子  
流

智恵の程 蔚田細如實

ふらうごうあわううねのち百姓身負  
めりりしとあふれふらん潮の上の  
あふりがらぬ歌付るほどのゆそら

歌如の程 波茶れるま

さへらぬ色ゆーさうたは東あふを  
うーしてたれあふあが命ふゆーよ  
あふらうる教筆のあやまらう

法養の事 樂安入の種

法永四年此秋夏憲國師と開らて一寺を建之せり  
新てとて巻の意と點ト安藤周防と料まよせり  
も天の事をせられり。不目れ経受まかして輝農の程  
を交り。別は寺入の事二の列よせりし。あつては家の  
勅形を別して武家の新編とて。ふらの僧をせり。  
法養の後式嚴まの依之勅使友中納言資の院月  
左衛門佐藤成陣系と昂法舎とめり。安小雲列の  
作と本場乃判官の員法事役目如僧作の響を役  
取つせけり。そのあふをさふ不骨ふしてまら軍師の

弁。蔵本の中。ふ案内ありて。さき先守師並  
物列。る男光。研文部。宿作。て。可申に功者。るべし。け  
んよ。い友の。法。り。れ。指。号。と。れ。じ。べ。し。と。師。並。被。入。其。あり。て。  
其。家。此。法。例。に。事。留。り。お。つ。つ。か。の。へ。法。より。つ。け。て。下。知  
と。う。と。べ。し。と。料。事。も。た。れ。ば。元。來。師。並。法。治。る。書。と。内。意。慕。し  
て。信。延。の。房。と。り。か。せ。嫌。と。して。教。通。部。并。を。お。れ。ども。  
貞。言。其。女。と。て。又。よ。ね。く。せ。う。た。れ。ば。不。論。も。負。を。お。も。の。ほ。  
れ。よ。女。許。り。さん。と。あ。て。お。も。の。さ。う。か。れ。ば。免。竟。の。討。ま。い。こ  
ん。な。れ。あ。の。よ。い。友。も。な。ら。ず。や。に。指。号。と。て。西。目。と。り。か。り  
せ。その。も。と。自。滅。さ。る。べ。し。と。の。中。小。さ。の。巧。ぬ。か。り。可。事。法  
指。号。と。り。べ。し。と。さ。う。お。も。の。事。あ。ら。ん。を。お。も。の。さ。う。か。り。と。り。べ。し。

あ。ら。な。け。り。後。せん。と。い。ふ。う。く。後。る。事。に。も。負。師。並。  
の中。に。一。物。あ。る。と。い。ふ。も。う。つ。と。て。礼。を。お。演。ね。ば。私。宅。へ。と。こ  
ぬ。く。て。信。延。此。南。目。と。も。か。た。れ。ば。あ。ら。ん。師。並。よ。た。れ。と。れ  
し。事。な。れ。ば。今。日。の。お。案。内。に。あ。ら。ん。と。も。さ。き。先。守。に。お。め。ら  
も。た。れ。ば。常。に。連。と。こ。ら。も。進。け。る。賢。中。國。事。上。下。を。し。り  
れ。る。が。同。席。に。大。小。名。に。つ。と。も。と。も。上。下。を。ま。り。か。め。れ。る  
に。て。法。は。不。論。合。わ。せ。ら。へ。う。け。刺。殺。使。へ。對。面。の。さ。り。し  
と。師。並。遠。上。海。よ。の。かり。と。も。負。の。あ。ら。ん。の。等。を。礼。法。よ。り  
たり。ける。と。上。刺。殺。に。西。目。と。り。か。り。と。す。と。も。さ。き。先。守。より。れ。り  
な。ら。ん。の。池。邊。の。ひ。ま。り。と。も。内。の。さ。り。か。れ。ば。お。遠。し。と。も。  
遠。の。事。の。と。出。來。の。て。面。出。れ。赤。面。再。と。も。お。め。ら。大。切。の

大老  
卷一  
一



大老  
卷一



細腰よりみどとそ。そ目けつぐあつとも。宿願よかり。  
おの侍本村海三。懐の節を。席らうく。時宗さま。是も  
傍あそ人のあまし。いそ念ら。然るに。うぐさ。す。と。後せ  
ら。ま。くれ。本村安とあ。い。い。横の。ね。お。極。う。い。な。え。え  
来。ま。親。ち。執。事。職。と。鼻。よ。あ。て。そ。礼。の。仕。方。さ。う。に  
飾。じ。か。ら。い。ま。系。れ。徳。大。名。つ。ま。う。か。ま。う。が。お。お。ま。い。と  
ふ。人。を。か。く。若。著。横。を。い。い。と。み。な。ま。ふ。と。い。ま。と。ま。を。う。  
と。穩。便。よ。給。さ。う。く。あ。たり。う。矢。の。恥。辱。た。う。い。も。そ。い  
別。後。の。の。光。い。小。不。忍。別。乱。大。謀。と。る。愚。の。一。字。い。と  
世。後。代。不。易。の。砂。う。ま。う。ま。う。ま。う。機。縁。ち。ま。い。バ。男。を。お。大。要  
と。形。も。バ。唯。ま。是。れ。は。殊。と。あ。う。ゆ。り。う。る。と。細。を。つ。う。

て。練。ろ。ろ。る。げ。ふ。と。と。わ。も。と。つ。ま。う。す。う。顔。色。と。ど。や。い  
ら。げ。ら。ま。う。ら。い。本。村。源。三。が。母。の。別。友。の。乳。母。と。そ。い。い。と  
い。乳。兄。弟。重。重。の。ま。ま。な。れ。い。ま。ま。側。と。う。ま。ま。い。乳。  
の。う。く。に。付。添。け。う。げ。後。れ。ま。い。ま。い。つ。と。も。決。く。制。一。止  
げ。い。一。切。一。夕。の。改。ま。わ。ら。ぬ。ま。ま。の。歳。末。の。結。算。と。い。ま。村  
が。母。ま。ま。ま。ま。負。へ。進。う。ま。ま。と。ま。ま。ま。ま。の。せ。と。う。ま。ま。け  
終。定。致。の。賢。中。目。と。う。の。内。一。の。忽。と。ま。ま。う。ま。ま。と。此。人  
の。入。る。ま。ま。一。る。ふ。あ。う。孫。べ。ま。ま。く。不。審。と。れ。ど。か。ま。ま。ま。ま  
と。あ。ま。ま。あ。う。麻。の。下。に。梳。の。鳴。ま。ま。う。ま。ま。ま。ま。い。福。れ。際  
ま。ま。い。の。ま。ま。い。これ。ま。ま。い。ま。ま。い。賢。中。目。と。ま。ま。ま。ま  
陰。ま。ま。ま。ま。い。母。ま。ま。い。あ。ま。ま。い。梳。と。い。ま。ま。賢。中。目。と



一殺し。後切へ一とあるは、さげり。本村が、後切を、  
 はんの胸をさすので、狭きより、大紋を、おきと、さ  
 けり。かくて、大名小名、威儀堂々と、並ぶ、れ、る、中、と、成、死  
 守。別友、おじうい、それ、う、ま、い、家、あ、長、と、下、を、さ、せ  
 ら、さ、う、子、連、大、紋、お、ま、り、さ、う、さ、え、目、さ、の、種、神、妙、よ。  
 の、用、さ、あ、る、ゆ、へ、始、り、い、ま、一、法、で、今、ま、ま、を、ま、り、行、い、大  
 紋、を、審、ま、う、い、う、け、と、さ、と、さ、る、あ、る、結、核、の、大、紋、や、と。  
 わ、さ、け、り、や、い、ち、う、さ、る、も、い、別、友、今、な、り、の、い、終、が、今、日、れ、と、い  
 た、う、く、何、条、果、と、田、金、武士、と、な、い、い、悔、う、と、さ、へ、う、り、と、と、  
 や、法、思、ぬ、ご、う、と、お、サ、刀、を、り、わ、さ、ま、向、う、切、替、う、れ、た、師  
 を、運、や、強、り、え、お、馬、憎、み、に、刀、を、い、り、て、さ、ま、す、う、と、  
 せ、け、り、と、今、一、刀、や、と、う、り、上、た、ま、し、前、と、い、ら、せ、う、や、と、大

小名、や、ぐ、と、お、ね、り、ま、り、終、又、法、治、と、お、替、お、し、て、一、寸、と、と、  
 た、う、を、い、ら、し、あ、下、と、さ、え、れ、べ、さ、の、お、れ、法、治、と、さ、  
 多、う、い、う、ゆ、う、宿、さ、たり、九、法、ま、の、湯、と、い、け、り、又、執、使  
 入、来、の、初、ま、答、應、お、役、人、う、て、か、う、不、心、候、又、傷、  
 飛、脚、か、う、う、と、ど、か、う、終、て、い、法、治、あ、る、べ、と、と、先、推、井  
 接、磨、守、お、常、へ、と、お、れ、れ、る、師、直、の、時、直、と、願、て、別、命、を  
 目、す、と、い、ま、じ、う、い、は、む、と、い、名、り、条、お、さ、え、と、い、別、命、然、  
 後、守、師、泰、小、ぞ、お、れ、せ、け、り、前、て、信、お、さ、る、い、法、治、侯、同、家、  
 の、大、事、と、う、い、は、し、私、儲、を、先、行、と、と、押、し、の、働、さ、優、  
 怒、の、沙、汰、知、べ、う、と、と、そ、別、命、が、推、井、接、磨、守、の、完、お、い、て



切後とていふ言ふ此れ死の命とに交てんるなり  
たす。おびてさうかひ人まぬ元弘の戦いなり救済軍  
又手扱を脱りて成功化よくなりておぼしめし國を治り  
家治は船中思せしりまに恨も此よまのいごたの時言場不  
とあつてさういふ言ふを討負せしぞ。せまくと亡びら  
もし。申。毛皆前世の業因の感もろふといふか。流芳  
百世とわいふ。又ま真万年とやいひてさうたてりけり形  
勢なり。愛にいかう嗚呼の者もさういふ人狂言と化つて  
童蒙此矣。程とていふなり。

高島守師連

すのぶの飛いひさうぬみけし

さうれながるも命のあつた

高島判友貞

さうとていひ世あふんやされふん

さうて浮世とていふ

判官切後の故郷州高島は城渡ぬあふりていふ  
名を渡の佐大平が雲のよ。小林氏初め熱田の元をお  
副らもあやめいさういひけらる。愛に高島代に執事  
高島守家村とて文武よま。勇士けりけり。主君を貞  
と俱よま。京よわらりし。判官生害よま。いたまふと  
さういふも。おぼしめ村源三八儀の命とていふ。おぼしめ  
をまのいふも。州高島の地へ。高島とていふ。高島は



此紙より中へも先達しは事ごとくけるを叩き  
 をひくこ。あふと居る前よ。二人の勇士一趨よきゆりされ  
 ば。名力を切て事れ候を後をうける。心強けり。其の評紙  
 いかふ。多たのこ。何と有なれ。たけと。はる。と。並。居る  
 人へ。と。見廻して。いれ。ぶ。も。詞。を。後。へ。れ。し。こ  
 を。知。る。の。お。よ。死。す。と。せ。進。を。家。人。へ。て。死。死。を。  
 強。理。の。流。よ。と。う。さん。と。り。と。く。一。戦。一。勝。を。死。に。付。死。し。  
 亡。去。の。殉。死。は。信。ぜん。り。お。化。事。か。一。死。と。い。は。後。不。同  
 心。の。人。く。い。急。速。よ。退。る。べ。し。又。一。味。同。攻。の。事。の。事。子  
 を。人。等。の。足。弱。を。使。は。付。て。死。け。ら。と。と。と。義。を。守。る。た。は  
 を。胸。と。ら。り。て。い。れ。い。或。い。恐。お。れ。か。也。を。行。も。財。宝。よ

眼<sup>まなこ</sup>は腫<sup>はれ</sup>病<sup>びょう</sup>倭<sup>わ</sup>奸<sup>けん</sup>の擧<sup>あがり</sup>ぬけども我<sup>われ</sup>先<sup>まづ</sup>より為<sup>なり</sup>ゆり  
る。八百余人と云々。家中<sup>うち</sup>の若<sup>わかしこ</sup>も今<sup>いま</sup>總<sup>もつと</sup>は百七  
二成<sup>ななふたご</sup>より。毛<sup>け</sup>の落<sup>おち</sup>活<sup>か</sup>一<sup>いつ</sup>族<sup>そく</sup>。目<sup>め</sup>多<sup>おほく</sup>在<sup>あ</sup>り。といふ者<sup>もの</sup>多<sup>おほく</sup>く師<sup>し</sup>  
也<sup>なり</sup>。媚<sup>こぼれ</sup>のらしは眞<sup>まこと</sup>の村<sup>むら</sup>の男<sup>おとこ</sup>ありし。腫<sup>はれ</sup>病<sup>びょう</sup>神<sup>かみ</sup>はよそを  
道<sup>みち</sup>の迷<sup>まよ</sup>。よりのごとく。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
付<sup>つ</sup>死<sup>し</sup>せん。よりのごとく。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
用<sup>もち</sup>金<sup>かね</sup>をもらひて。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
家<sup>いえ</sup>をたのむ。まはす。穢<sup>けが</sup>れ。致<sup>いた</sup>す。く。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
やうの。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
心<sup>こころ</sup>を。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
を。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は

剛<sup>がう</sup>冷<sup>れい</sup>一家<sup>いけか</sup>く。父<sup>ちち</sup>母<sup>はは</sup>妻<sup>よめ</sup>子<sup>こ</sup>兄弟<sup>けいテイ</sup>亦<sup>また</sup>も人<sup>ひと</sup>形<sup>かたち</sup>も。殺<sup>ころ</sup>別<sup>べつ</sup>  
。殺<sup>ころ</sup>さへ子<sup>こ</sup>孫<sup>まご</sup>を。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は

あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は

去<sup>さ</sup>後<sup>ご</sup>。中<sup>ちゆう</sup>小<sup>せう</sup>妙<sup>めう</sup>。止<sup>と</sup>ま。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は  
。あづか<sup>あづか</sup>りけり。叔<sup>おふき</sup>母<sup>はは</sup>同<sup>おな</sup>じ。終<sup>しま</sup>は

て。師。志。手。飛。平。金。して。世。居。い。ろ。く。た。い。ら。い。と。り  
由。是。而。前。古。判。爰。爰。の。懇。款。は。若。を。付。て。亡。き。れ。皇。下。の  
内。保。と。り。と。ん。と。い。ま。い。某。が。一。命。に。今。日。より。大。切。に。存  
せ。し。た。だ。穩。便。に。地。域。め。て。迷。は。お。後。え。ん。と。存。ぐ。喜。い。に。れ  
ま。り。く。や。と。あ。わ。せ。い。並。居。う。ろ。く。と。い。を。お。極。め。り。は。と。い。ま  
此。中。い。ち。て。地。地。を。掃。き。く。地。液。一。の。と。い。は。長。く。不。好。同。ド  
り。の。空。名。大。平。あ。た。お。改。入。東。あり。た。れ。中。此。人。大。ま。れ  
門。を。預。り。い。ろ。く。と。不。好。お。出。て。礼。義。を。と。り。ど。式。甚。し。右  
例。以。引。て。移。に。地。を。改。け。け。形。勢。最。に。爰。を。及。ん。て。う。け。り。  
地。内。の。掃。除。法。具。の。目。録。は。お。と。地。所。か。り。り。と。あ。ま。た。お。を  
始。信。卒。皆。感。念。也。地。は。神。妙。お。ぞ。及。ん。て。う。け。り。これ。は。地。所。を

爰。の。宰。人。隣。必。又。ハ。難。波。深。う。わ。り。の。ち。和。沙。や。奈  
良。教。の。厄。邊。而。縁。と。な。ぐ。存。引。終。し。中。よ。も。本。村。の。源。三  
七。十。五。年。の。老。母。此。切。少。り。守。育。事。也。一。故。殺。の。事。而  
己。心。い。か。朝。言。な。げ。さ。て。う。け。り。と。地。を。及。ん。て。う。け。り。地  
乃。康。よ。叶。て。身。心。と。い。は。一。心。亂。し。て。念。の。口。と。と。ま。じ。ば  
た。の。と。と。く。か。よ。ん。て。う。け。り。源。三。五。考。れ。若。か。れ。は。を  
爰。と。ま。の。く。ん。と。い。れ。芽。を。よ。身。と。り。く。む。母。と。り。く。り。取  
は。し。も。と。と。が。ら。の。の。あり。と。せ。ば。ん。と。つ。り。て。看。病。せ。り。お。つ。た。を  
よ。右。傍。寺。八。幡。亦。即。為。事。り。源。三。よ。じ。り。い。か。あ。ま。た。お。を  
存。保。ら。地。所。本。村。道。本。と。是。爰。せ。り。と。て。於。此。方。へ。お。と。じ。り。り  
し。り。終。て。候。う。と。わ。づ。れ。ハ。我。し。同。志。の。事。と。流。ひ。よ。ま。さ。之



一日しかがくわたりと亡きもの不忠といひ子まを名とく  
だん事なれば時とるく死とるしと忠をなれつてさき  
漢地の我いよ王法といふ法をうけてことりたりと地  
をとりしに内ふあどは付頂の共おとらしてさき度  
い母のるよらう名とある事後うとえんどう前王法が母  
とらして権の西よあて地とせじうがわがま後夫とつこ  
しとせじうして時人よあつ事わふしといひさふ彼母とら  
てより。彼母の中いさうさ後我よ信う事大あん。さ  
ちんが孝りあささう我あなせれおてよまがま法よじ  
よわどわぶ。ま後出よして地とくさう事わふ。さ  
き後さう今と子孫のあふとえよといひ定てらう

れよ小死てさつわ小ま後う名とわげたりし。我よ又我あ  
がりうあよわと。我一人のわてゆよまの備ふれ款を亡と  
又命とさうわと事。身一不忠不義れさうかると。とらあ  
奴をいよ。やうくおけ旨と書。人參と割る小刀あり  
をさつといまたまら。般さあひのさ。のさふつとたてうが  
が。あさうけ。源三母の食物さうらんぬら。わえよ。り  
て毛をさうと。暮菘牛房やれ物を料理して。割粥み菜  
とわ。惣物より入母よあ。せん。膳をのりて。奥よあ  
さ。い。押さうて。肝をつか。からたる膳をわらう。かげとそ。母よ  
れ付。毛いふとつ。さうと。子。半。さ。れて。お。と。か。源三目  
くれ。を。さ。う。の。ま。と。わ。て。さ。う。け。が。書。と。わ。が。く。て







よ事と起し仕換じるものか。夫は後遭厄死すの事  
新べし。唯某は此身を隠し候へり。則ち後逢ふ事  
亡去の候世も持ていのり。雖も悪の業はつとも可なり。と  
とこそ存りて人妻やゆへと。とこそ悪と何ふ事なきは  
いふ事なき。病は死べし。これかゆの事。今も昔も。人の心は強  
弱真徳とぞうかひなき。又黄金百両を以て田畑を賣束めい  
ふくく。換束とる。月を以て河をせ。智識なきは由らぬ。物と  
うげのみ。妻子財寶を以て。身は長に於て。よき事。  
嘲々族も多かりけり。八幡の命を仰。徳田花屋木村を以て  
ふ。いふ。と。老をい。自由は。心は。胸が。ゆ。ゆ。又。い。ふ。の。愛。せ。る。夫。女。  
夫の勇士かれ。我。胸中を。探。る。る。よ。い。ふ。事。は。い。ふ。事。を。さ。す。

うもが。形。い。ふ。ぬ。ら。の。産。と。う。あ。り。一。夫。よ。き。事。急。あ。く。大。義。の  
企。を。あ。り。わ。る。を。た。と。う。の。と。族。宿。れ。死。後。よ。れ。死。つ。と。多。く。得。  
定。せ。り。取。へ。情。事。の。取。扱。助。七。か。り。ゆ。り。と。う。く。由。ら。ぬ。物。  
い。せ。よ。つ。も。て。い。ふ。を。れ。身。操。中。し。て。又。百。兩。を。以。て。長。生。と。う。事。な。と  
い。へ。て。大。分。の。金。を。さ。か。し。田。富。や。り。賣。洞。大。小。や。り。て。勘。状。よ  
び。而。姓。よ。つ。を。列。せ。り。今。と。の。大。義。と。わ。り。い。ふ。事。後。と。せ  
ら。ま。か。り。都。の。師。を。入。道。を。と。る。事。と。な。れ。ま。す。だ。あ。り。ま。の  
い。と。そ。れ。に。是。れ。我。が。り。死。う。け。て。ま。そ。仕。換。せ。ば。な。ら。ぬ。と。い。ふ。由  
良。い。物。か。ら。ぬ。と。い。ふ。事。は。た。ら。ぬ。大。中。と。い。ふ。事。は。ゆ。り。あ。や。い  
た。ま。と。う。と。う。く。急。し。師。を。入。道。を。入。り。け。せ。二。三。よ。お。つ  
ふ。と。も。死。あ。ら。ぬ。と。い。ふ。事。は。い。ふ。事。は。い。ふ。事。を。八。幡。の。命。を。な。

あつてやくあつねの事あつねの性くくくくくくくく  
し。と由は曲の智仁田如三徳と意ゆへる勇士な  
まべん危をやくとわさぬあよ何とぞぬらる中絶らん  
大菱実より梅へく形く梅根と前存あつて世るを  
んかり人をねきて代の名部く田細といふに我若を  
あつて慈世とへさるやにをかくて田細といひる取  
管くた根のつらふ前づきと意惟くかんまんと意業  
してついにれづ種の人くもを打て城よもいふ身友の  
此羽羽ふあつていなり。我くも又あよつてびがう方後と  
い。由は曲の分危の窟実をすやさんとして。その日の  
伴候へ果にうはひ長月来のう。垣根の著うう秋

まつて。初血あましく春々。物とる若あよ替りて松  
の夕風綿のそつといふぬらりのあさうく南隣よの  
下女が力よはをて梅ふもかこまら梅れく。賦が  
佐藤と今あつておれく。若とてけて身河津文し同く  
とれつ。前如名屋よ。笑いと作り。まこと浮世よとめる。年々後  
とて也隣とさけい。若みよの初ううの故よの。中め方の。意  
をいさうして強いつまらして。色事にあつて。松と人か  
と。由は。助あも神れ。ま。具力を。古。軍法。此。一  
二。とる。きり。か。竹の。根。戸。と。け。り。く。た。さ。女。男。れ。あ。ま。く。ま。で  
此。軍。人。と。ん。令。率。忽。か。う。け。込。出。れ。や。及。前。銀。い。子。細。を  
て。意。よ。遊。子。か。り。の。づ。も。が。ま。は。合。私。遊。子。と。あ。せ。ぐ。る。是

弱を乞ふががが新とらうして下ればせしは敵の  
 めと余義を乞ふたの事なれば由は御のよこころにてこそ  
 こそせらるなりぬれを御遊まへんて御承だをの  
 づらひに推しぬごう。お手になして御の御心なれば  
 の基大に御座るといふなり。大切なる病人を乞ふと敵  
 れ事をも乞ふががが新とらうして下ればせしは敵の  
 さまとて情なきことなるも彼者恨むる事にて御情  
 剛烈にたの強。その事なるとも侍の御心なればせしは  
 び治らんや。御心なればせしは御心なればせしは御心  
 程中とてうらに御心なればせしは御心なればせしは  
 なる。愛は乞ふとて御心なればせしは御心なればせしは

母を乞ふ事なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 子達くまひ。女性御心なればせしは御心なればせしは  
 何とてよとて大事とかくの事なればせしは御心なればせしは  
 へむらひ。御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 換子。御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 まい。御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 なた。御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 て。御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 い。御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは  
 免を乞ふとて。御心なればせしは御心なればせしは御心なればせしは

乞仁の乃たり。亡者の歌と亡者事の集があらうとくや  
 ぎくたりのなり。まづりてやかくおと教へるべしと母に  
 云ふ事入んじ。ままた大津と云へば化人のる。一命と云  
 てん事。更にもなるあつと云へば父の利と云ふと東言はる  
 乃病事なりと。大といふも大義より親とあらうかと云  
 へ父の命と云へばおと教へるべしと。親子利と云ふ  
 ていさふ討教は組戸をせらりてわけ八橋の命も村邊と  
 ても亦一味に傍事つけ入て。まの忠の真と云へる。と  
 を法推氣かゝる教に申する。かゝる相と教を徳を家  
 見り計りては。徳ありに忠の中。徳に教くとも言ふべし人  
 教はうたふら下らうと。徳は長んぬらうと。わくは

へのつらむ氣をたてて由はく助父子感化一圓なる  
 けて密に戸ける。若き者も討つて由と。事なり。あら  
 り。衆れり。くわいひつ。また。元徳煙霧の事。後せば  
 事の漏安らん事。さういふ。母とあらう。事の中。ま  
 り。事のく。三つ。おん。けら。おん。おん。の。か。し。に。後と  
 たり。古判友をたし。教代お傳の家。滅亡。悲歎師  
 老の世よりいふ事。まの骨髄は傲して。事永  
 劫を歴る。と。わ。約。つ。に。あ。う。う。と。若。則  
 死。と。り。見。義。不。為。近。日。師。を。が。鋭。へ。け。た  
 死。ち。う。前。て。庭。前。捧。亡。死。の。情。と。体。な。り。利。に  
 目。は。ろ。を。念。も。あ。ら。う。り。介。あ。い。と。に。満。其。の。事。一。回

二十九  
と依い合事うごうのいびんをこし一務當おの事  
といつる。ね母よりしひやかり

敵りむかひ茶のるあま

事小をたをわしてのら木村の海と解と遊手かやうと。  
仰りあげう女性初る子を二人をねらり連るり。は女  
中初る人の傍寄の思角を内家弄と見事れ。息  
をうしてんが角をわをい味と遊女のねたあめ怒をか  
ろかんと親したふ合され。而もかどく病死つこれ忘  
形見の二人お男子と書育せも物憂あつてよ。宣行  
の依見の里よわもつら親が務宿へ移りれ。大やと

さしとあひひ子をこし人教よとくられしたのまはるか付。  
音きくの心屋とさうり。らん謀の役人おあめをを  
侍い系りたり。共今とて大甲金の棟梁と道たけい。音  
悪よつとけい。侍者さうの縁げ初めの人くと具  
系るせんといふ人か。どうい義と抱く。血指あまじとりせ  
い。大菱流をか。影とさうら。屋女依か。船入といふと  
し。たがら。ま。初雅の人くと具。あをて。大後雅。雅。た  
ま。う。障り。と。あ。か。の。却。あ。が。不。忠。よ。茶。事。と。わ。り。ん。  
只。れ。い。じ。ん。守。ま。う。れ。成。長。て。は。あ。家。あ。つ。と。り。亡。死。を  
ま。う。遊。音。と。い。わ。か。あ。い。ん。事。と。御。く。な。い。と。り。さ。れ  
た。れ。い。ば。女。面。を。着。て。い。み。た。初。め。と。い。な。ま。あ。と。あ。が。れ。い。ま。よ

此意のやうなり申はつた。一家の續命とらしく是  
 ら思ふ。わたりすこと事や。はらへて言つては角を進  
 絶すと云てきこ。幼稚とて物もや。はらまをれ。一味の  
 常中懐と生をけり人殺お中に百加も責て。款御を  
 が門内へ云ぬを踏せり。やにわたぬ。わとこそ申。おひへ  
 ち家へたの身とや。後世らとていふこと。進と人殺  
 らくすも事変とてぬ。こに終りぬ。げ子とて殺  
 我とてにお果て。冥途へゆ。まは。踏居。又。ま角を。と。い  
 旨。申。信。ん。ら。わ。か。と。ま。を。や。を。か。て。ま。ら。れ。た。ま。其。ま  
 びと。を。ら。ち。け。た。か。か。ぬ。程。や。に。ま。す。す。べ。ら。う。か。や  
 かの。人。と。二人。は。信。ん。ん。大。治。所。妨。大。養。の。障。り。と。い。い。

へい。兄。身。の。子。息。の中。い。ま。も。と。と。一。人。奥。へ。と。と。余  
 候。と。ま。ら。う。後。方。と。云。て。内。を。ま。ら。く。と。際。ま。が。あ。ら。く  
 物。と。い。ま。と。道。進。の。神。と。と。へ。ら。申。今。年。九。つ。の。あ。け。の  
 角。孫。と。い。ふ。子。を。た。て。り。を。懐。中。此。守。り。を。お。て。と。て。は。殺  
 さん。と。と。た。の。人。く。も。む。ね。を。し。ら。へ。と。た。た。り。ぬ  
 つ。ま。先。生。御。に。ぬ。物。を。り。と。お。け。り。と。い。ふ。女。孫。孫。後。て  
 ち。う。く。啼。て。り。け。り。今。ま。の。兄。身。は。子。を。は。な。と。つ。み。け。ら。ぶ。社  
 合。と。と。い。ふ。ら。う。か。ち。極。ま。と。い。ふ。や。怒。り。南。北。の。兄。妻。の  
 子。よ。う。て。我。為。よ。の。健。子。を。り。才。角。孫。と。い。ふ。は。血。と。い。い  
 実。子。た。も。い。兄。角。孫。命。を。い。な。れ。ぬ。人。殺。へ。お。か。り。む。か。ら。な。い  
 申。よ。せて。健。子。を。り。か。ら。な。れ。に。つ。ら。い。実。子。の。身。の。事。申。か

海島よついで。母がえよとて。世の人はよからん事。う  
 つもごとく和。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 どめをい。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。  
 せ。兄の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 どの事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 こ。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 んの事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 る不便。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 くれ。大。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 の。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 され。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。

彼。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 くと。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 の。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 い。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 我。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 の。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 の。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 大。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 の。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。  
 推。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。うとて。母の事。

しごからまきろ。はぬと敵の板子目しよ。突へて。知し連  
環の媒しご。たりたりけり。

忠臣蔵大平記巻之一終





